|  |
| --- |
| 開催セミナー |
| 第６３回　農楽マッチ勉強会 |
| 日　時 | 2018年4月15日 (日)　　13:30～16:00 | 場　所 | グランフロント大阪　A 31階マイナビセミナールーㇺ |
| 講　演　者 |
| 　河南町　農家　丸山友規氏　　　　ひらかた独歩ふぁーむ　大島哲平市 |
| タイトル | ２名の若手農家の講演 |
| 内容 | 丸山友規氏　大学卒業後、２００４年にオランダ農業研修を経て、就農（就農歴１２年）。　経営面積は、５０a（うちハウス３５a）にて、トマト、パプリカ、スイートコーンなどを生産している。販売は、８割が直売所（歩いてすぐのところに、道の駅かなんがある）。　アグリアカデミア（大阪）を受講。２０１８年の農ワングランプリ準優勝。　新規就農の壁として、①設備投資、②ネットワークの構築、③住居・仲間・娯楽があると考えており、以下のような事業により、壁の低減を目指す。①に対しては、中古ハウス再活用事業により、例えば、新品だと１３０万円かかるところ、中古ハウスの新規就農者への斡旋により３０万円にすることが可能。②に対しては、インターンシップ事業を実施し、自分の農場７５％、他のベテラン農家２５％という形でインターン生の流動化を図り、若手とベテランのもつよいところをマッチングし、相乗効果を期待。③に対しては、シェアハウス事業を検討中（ただ、現状、空き家がなかなかみつからない）。　２０２５年に２５人の雇用を目標としている。大島哲平氏　大学卒業後、給食の職員を経て、オーストラリアで２年間ワーキングホリーを行う。その後、２００９年から丹波の橋本農園にて研修後、２０１０年枚方市の有機農家で研修し、その後、徳島県にてBLOF理論を学ぶ。その後、枚方市にもどり、研修先であった枚方市の有機農家で勤める。２０１５年、枚方市の穂谷にて独立就農（枚方市の認定農業者第一号）。　栽培品目は、ミニトマト、キュウリ、カボチャ（夏秋）、ホウレンソウ、小松菜、小カブ（秋冬）など。圃場は、２０枚あり、登記上の面積は、１５反あるが、山間部で、使いにくい土地が多いため、実質使えているのは５反程度。　２０１８年、農１グランプリにて、『「イタリアントマトのソバージュ栽培」を活用した「穂谷の里山」からのオモシロイ都市農業再生プラン』で、優勝。枚方にて、特色ある農業をし、「売りよし、買いよし、地域よし」を目指す。BLOF理論の栽培技術講習会を随時実施中で、また、WWOOFの受け入れも積極的に行っている。　経営課題は、事業継続と事業承継。　好きな言葉は、「The First Penguin 」「The First Step」 |
| 文責 | 荒木　健太郎 |